

# 日々の祈り

2022年4月11日(月)~16日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・わたしたちの罪を赦すためのイエスさまの十字架の苦難を覚えて、悔い改めつつ日々を歩めるように。
- ・イースターの喜びを多くの者と分かち合えるように。
- ・罪の赦しを与えて下さるイエスさまの前にすべての者がひざまずき、互いに愛し、仕え合って、共に生きる世界になるように。

11日(月)

ルカによる福音書 22章 32節

しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。信仰とは、わたしたちの覚悟や信念などではありません。信仰とは、まことの神さまを信頼して、その御手に自分を委ねることです。神さまが誠実で、裏切ることなく、愛を貫いて下さる真実な方であるからこそ、わたしたちは信仰を持つことが出来るのです。この神さまの真実を現わして下さい。神の御子イエスさまが、わたしたちを捕らえ、わたしたちのために祈り、恵みの中に立つ者であり続けられるように、常に祈っていて下さいます。

12日(火)

エフェソの信徒への手紙 2章 8節

事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

わたしたちは、信仰によって救われます。それは、神さまがわたしたちをお造りになり、愛して下さい、御子イエスさまによって罪を赦し、いつまでも共にいて下さることを信じることです。そして、これはすべて神さまから恵みとして差し出され、与えられるものなのです。これを喜んで受け取ること。神さまの愛に応えること。それこそが、神さまがわたしたちに望んでおられることです。

13日(水)

イザヤ書 52章 10節

主は聖なる御腕の力を／国々の民の目にあらわにされた。地の果てまで、すべての人が／わたしたちの神の救いを仰ぐ。

次の主日礼拝の御言葉です。神さまの救いの御業が、イエスさまの十字架と復活によって実現しました。この救いは、地の果てまで、すべての人があずかるべき救いです。ここにしか救いはなく、ここにこそまことの救いがあります。そして今、エルサレムから時も場所も超えたわたしたちもまた、神の救いを仰ぐ者とされています。

14日(木)洗足木曜日

ヨハネによる福音書 13章 3～5節

イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。

イエスさまは十字架に架かれる前の晩に、弟子たちの足を洗われました。弟子たちよりも低くなり、その身をささげて、弟子たちのために仕えられたのです。イエスさまの十字架とは、そのようにわたしたちのために御自分の全てを投げ出して、わたしたちの罪を代わりに担い、その苦しみと死を全て引き受けて下さる、まさに、ご自分を低くしてわたしたちに仕えて下さった御業でした。

15日(金)受難日

マルコによる福音書 15章 33～34節

昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

神の御子が、なぜ「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばなければならなかったのか、不思議に思うかも知れません。しかし、この叫びは本来、罪によって神さまから離れ、怒りにふれ、滅ぼされても仕方がないわたしたちが叫ぶべき叫びだったので、そのわたしたちの罪をイエスさまが全て負って下さったからこそ、イエスさまはこのことを叫ばなければならなかったのです。わたしたちの最も暗く、深く、絶望に満ちた罪の果てに、神の御子が来て下さったのです。

16日(土)ヨハネによる福音書 20章 21節

イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

明日の主日礼拝の御言葉です。恐れと不安に閉じこもっていた弟子たちの只中に、復活のイエスさまが来られました。イエスさまは言われました。「あなたがたに平安があるように。」わたしたちの平安とは、どのような嵐の只中にあったとしても、十字架と復活の主イエスが共にいて下さるということです。わたしの罪を贖い、永遠の命を与え、復活の約束を与えて下さるお方が、わたしの主であるということです。そして世のすべての人々がこのまことの平安を知ることが出来るように、わたしたちは遣わされています。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』